

WELCOME TO HEARTS VILLAGE

アメ車と遊びにまつわる狂想曲。

発行: HEARTS RIZING 監修: 財研 株式会社

皆さんに、もう一步近づきたい
その想いを形に

※U.S.CAR※
KUMAMOTO SIMONA BASE
SUV&TRUCKIN'

「Hearts Village」創刊。

突然ですが、もう車を売るのは辞めます。

「HEARTS RIZING」代表の山本です。いつも我々の情熱を真摯に受け止めて頂くと同時にご愛顧頂き、この場を借りて御礼を申し上げます。

さて今回、前告知なく突然このような「紙切れ」をお送りして失礼しました(驚かれた方も多いでしょう。すみません)。普段、しょっちゅうお会いしている人も、そうでない人にも、改めて伝えたいことがありまして「ニュースレター」に記します。

2009年●月に、ここ下南部に念願の自分の城(「ガレージ」)を設け、今年で丸●年が過ぎようとしています。振り返るといろいろありました(しみじみと)。そして、いろんな方たちと出会いました。それこそが何よりも、我々の財産です。本当にありがとございます。

100年に一度の大不況と言われ、最近のニュースでは輸入車販売大手のヤナセさんが今秋をメドに米クライスラーと米フォード傘下ボルボの新車販売から撤退する方針を固めるなど、車業界は揺れに揺れています。そんな厳しい中でも、我々は何とか皆様のおかげで順調にいかせて頂いております。が、しかし、私の中でまだまだ満足できてい

ない部分があります。



▲2008年夏のエコキャンプより

かもしれない。皆さんが振り返った時に、しみじみと噛み締められる「何か」が心に刻まれている。そのキツカケが、アメ車であつてほしい……。最近、もっぱらこんなことばかり考えてます(もちろん仕事しながらね)。

厚かましくも、これからはもっとも皆さんライフスタイルまでちよつぴりおじゃましたい(笑)。そんな気持ちの形にするために、これから月一ペースで、自社媒体であるニュースレターを発行致します。毎月、「アメ車と遊び」の、おいしいトコだけギュギュッと自宅までお届けしていきます。

これを機に、ただ車だけを売るのは辞めて、その先の「思い作り」までトータルで提供していきたいと思う。

2009.04.22 PM22:30-



(有) ハーツライジング 代表・山本英俊

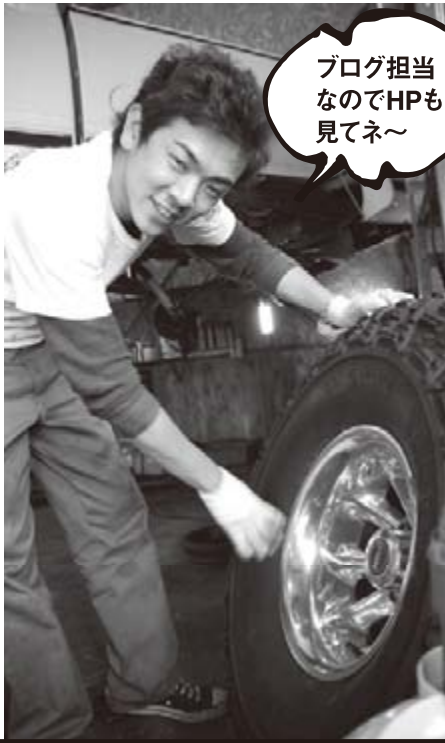


ハーツ村の住人、いらっしゃ〜い ▶▶社員紹介コーナー Vol.1

- ①名前 ②年齢 ③趣味 ④最近嬉しかったこと ⑤一言もの申す!

今月の住人さんは 「井出上 将」

- ①イデウエッシュウ
- ②若干22歳(老け顔だが、意外に社内最年少!)
- ③一人旅
- ④“スナップオン”の工具箱を購入!
ナント30万円!!一生モノです
- ⑤もっとアメリカン・カルチャーの洗礼を受け、深く掘り下げ、そして目指せアメリカ・バカ★



ブログ担当
なのでHPも
見てネ〜



自称
HRのマスコットの存在
。アメ車ワンポイント
レッスン ONE POINT LESSON
ラムちゃんの独断と偏見コーナー

LESSON 1

エコを踏まえて意外に燃費もイイ!?
アメ車の賢い乗り方

- ポイント①
アクセルを一気に踏み込まず、じわりじわりと!
- ポイント②
一速、二速とギアによってアクセルの踏み方を変える
- ポイント③
とかナントかいっちゃって〜。ラム姫ちゃんは〜、ガソリン高いと言わないの〜。アメ車のようにデッカイ気持ちで接すること



今月の金言

アメ車は、ワガママな異性と思え!

PROFILE

'83年生まれ、熊本出身。日本で一台しかない、ワンオーナーの'77年シボレーK10を乗り回すアメ車マニア。普段は車関連の広告代理店で働く、バリバリの敏腕営業マン

村の中心で メッセージを叫ぶ黑板

読者の皆さんから
温かいメッセージ
お待ちしております

メッセージ1

HEARTS 様 (心)
今日は、宛に来てごめん。
イセの仕事も、たくさんあったと思う
のに... 女系な者見せ! 女対応して
く来てありがとう。あ。の。の。
喜ぶなみなさん! けど、
付けた一、ポツのみなが
大スキです!! さあ、(益城町)

メッセージ2

ハーツの車を盗る事
シボレーK10、もはや欲しいです!!
また彼女と暮らす
by サトウハチロー

2010.08.02 (Mon) そして伝説の森へ

オフレコですが、
「Hearts Village」読者の方だけにこっそりと。
2010年8月2日(月)、「ハーツの日」と題し、
とあるエリアの山に「ハーツ村」が誕生します。
そこでは人と人が垣根なく繋がり、
現代社会が忘れかけている
「温もり」がある。そう、まさにその場所にいる人全員が
同じ村人であり、仲間であり、家族である。
そこで同じときを過ごし、感動を共有する。
そんな『遊べる』隠れ家スペースを目指します。